



但馬やまびこの郷
ホームページ▶



兵庫県立但馬やまびこの郷

<https://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

E-Mail : Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

やまびこ

「学校に行きづらい」「教室に入りにくい」児童生徒の
保護者のみなさんにお便りします

校内サポートルームってどんなところ？

校内サポートルームとは、学校に行きづらかったり、教室に入りにくかったりする児童生徒が校内で安心して過ごすことができる居場所のことです。

今回は、校内サポートルームに通う生徒や保護者、学校の先生、校内サポートルームで学習や生活の支援を行う不登校児童生徒支援員（以下、支援員）の方の声を紹介します。



当所利用のAさん

Q 校内サポートルームでは、どのように過ごしていますか？

A 勉強を教え合ったり、休憩時間におしゃべりをしたりしています。進路についての情報交換もしています。

Q 校内サポートルームのどんなところが良いですか？

A 友だちができ、支え合えるところです。また、支援員の方はとても話しやすく、私たちの気持ちに寄り添って、一緒に考えてくれます。あたたかい雰囲気、居心地がよいです。



Aさんの保護者

Q 校内サポートルームは、お子さんにとってどんな場所になっていると感じていますか？

A あたたかい居場所であり、良い刺激をもらって前向きな気持ちになれる場所であると感じます。

子ども同士で声をかけ合いながら、テストを受けることもできました。また、支援員の方は子どもの本音を聴いて、その気持ちに寄り添った関わりをしてくれます。他の先生方も、勉強や課題と一緒に取り組んでくれるなど、子どもの学びをサポートしてくれています。



Aさんの学校の先生

Q どんな工夫をしていますか？

A 子どもたちが安心して過ごせるよう、環境を整えています。エアコンの設置、ICT機器の整備、外からの視線対策などです。部屋のレイアウトも、数人で過ごせる場所と、パーテーションを使って一人で過ごせる場所を設けています。畳を敷いてリラックスできる場所もあります。

Q 支援員が配置され、どんな変化がありましたか？

A いつ行っても「同じ人が居てくれる」という安心感が、子どもたちの安定した登校につながりました。保護者の方からの信頼も厚く、「子どもとの関わり方や進路について支援員の方に相談したい」という声もあります。



Aさんの
学校の支援員

Q どんなことを大切にしていますか？

A 子どもの気持ちを大切にしています。そのために、最後までじっくりと話を聴くようにしています。勇気をもって一歩踏み出して学校に来てくれることが、うれしいです。



てっちゃんからのメッセージ



いったい、やまびこの郷には いつ行けばいいのだろうか？

兵庫県立但馬やまびこの郷所長 齊藤 誠一



これまで、やまびこの郷がどのようなところで、どのようなことをするところなのかについては、ホームページやパンフレットなどで紹介してきました。ただ、どのような時にやまびこの郷を利用したらいいのかといった、利用のタイミングについてはあまり説明してきませんでした。今回は、このことについてお話ししたいと思います。2学期に入って、学校から「不登校児童生徒への全県応援ネットワーク」というパンフレットが配られたかと思いますが、それをご覧いただくとおわかりになりやすいと思います。

1. 不登校の始まりからの経過をたどってみる

経過1 学校に行きづらくなり、登校を渋ったり、時々休んだり、朝腹痛や頭痛が起きたりする頃にあたります。ここでは、担任の先生や養護の先生など身近な先生、あるいはスクールカウンセラーに、お子さんの様子などを伝え、どのように理解して、どのようなことができるかを相談されることをお勧めします。お子さんの様子にあわせて、朝友だちに呼びに来てもらうなど登校を促したり、あるいはあまり無理はせずに休ませたりするといった対応になるかと思います。また、学校には行けても教室に入れない場合は、校内サポートルーム（以前は別室と言っていました）を紹介され、お子さんと相談の上、利用することもあるかもしれません。本年度は校内サポートルームに支援員さんが配置される学校も増え、教室に行けなくてもここを居場所として学校生活を送ることができます。



経過2 さらに欠席が増えたり、連続不登校になったりし、昼夜逆転の生活になることもある頃にあたります。この頃は、心理的不安定な状態にあることが多く、学校に関わる話題を口に出すことだけでも怒りを爆発させたり、泣いたりすることもあります。ここでは、無理に登校させようとして不安を高めることはせずに、家で安心して過ごすことに重点が置かれます。この時期が過ぎて、ある程度安定してきますと、校外にある教育支援センター（以前は適応指導教室と言っていました）を紹介されたり、フリースクールなど民間施設を検討したりすることもあるかもしれません。

経過3 生活スタイルは経過2とあまり変わりありませんが、心理的にはだいぶ安定してきて、学校に行けていないこと以外はふつうに生活ができる頃にあたります。外で友人と会うことができる場合もありますが、家ではやりたいことがないため、スマホをはなせずに一日中いじっていることもあります。この頃になると、スクールカウンセラーからカウンセリングを受けたり、教育支援センターなどに定期的に通ったりするお子さんもおります。

2. やまびこの郷を利用するタイミングはいつか？

いま述べた3つの経過ごとに考えてみたいと思います。

経過1 学校へは行きたくて、がんばれば行けそうで、まだ学校とのココロの距離が遠くない場合

は、励ましも有効ですが、我慢して学校に通っていて、ついに行けなくなってしまった場合には励ましはあまり有効ではなく、ココロの休養が必要かもしれません。校内サポートルームで不安やストレスを減らした学校生活ができればそれに越したことはないのですが、もし動けるエネルギーはありそうだけれども、学校へは行けない場合はやまびこの郷の利用を考えていただいてもいいかと思います。まずは、見学、一日利用を経験していただき、やまびこの郷の生活ができそうであれば、日常から離れてココロのエネルギーを貯めることも意味があると思います。家や学校から物理的に離れることで、これまでの生活を一度リセットして、自分を見直す機会にもなるかと思います。他方、これまで四六時中お子さんと一緒にいて、ストレスを溜めてきた保護者にとってもいい意味で息抜きになると思います。



経過 2、経過 3 経過 2 の最初の頃は心理的に不安定であるため、やまびこの郷を提案しても、考える余裕がないと思いますので、ある程度安定した時期や、経過 3 で家にいてもすることがなく、ゲームやスマホで一日を過ごさざるを得ない時期は、やまびこの郷を提案していただく好機かもしれません。家から離れて、知らない子と生活をともにすることには抵抗があるかもしれませんが、見学、1日参加でやまびこの郷の様子を知っていただき、関心をもったり、楽しさを経験したりすれば、宿泊に繋がるができると思います。

3. 学校へ行けず、ずっと家にいた子がやまびこの郷に行けるでしょうか？



確かに、こうしたお子さんにとって、やまびこの郷に行くことはとてもハードルが高いと思います。現に、やまびこの郷には来ても、なかなか車から降りられなかったお子さんもいます。それでも何度かトライしているうちに、1日参加できることもあります。やまびこの郷の玄関をくぐっていただければ、スタッフがそのお子さんの状態にあわせて、無理のない形でプログラムに参加できるように働きかけていきます。また、活動に参加すると、スタッフだけでなく、何度か宿泊体験をしている子どもたちもいろいろと声をかけてくれ、徐々に活動を楽しめるようになっていきます。活動の合間にあるやまびこタイムでは、卓球やビリヤード、ピアノ、カードゲームなどを自由に行うことができ、そうした中でもやまびこの郷の楽しさを経験してもらえるかもしれません。

学校を休みだしてから、一度も外出できないお子さんにとっては外に出ること自体が高いハードルかもしれませんが、どこかのタイミングで「こんなところもあるよ」とやまびこの郷をお伝えいただけませんかでしょうか。すぐに「行ってみたい」「行ってみよう」という返事はないかもしれませんが、諦めずにその時を待っていただきたいと思います。いずれの場合も、強制するのではなく、お子さんのお気持ちを一番大事にしていただき、行ってくれば儲けものくらいのお気持ちで構えていただければと思います。



私たちは、ついつい口癖のように「やまびこの郷においで下さい」と言ってしまうことが多いのですが、お子さんや保護者には初めての場所として不安も多いことと思いますので、お聞きになりたいことがありましたら、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。どんなご質問にも、心優しいスタッフが丁寧にお答えいたします。お問い合わせ、お申し込みをお待ちしています。

地域やまびこ教室

「地域やまびこ教室」では、但馬やまびこの郷のスタッフが県内5か所へ出かけ、体験活動や保護者交流会を行っています。第1回、第2回の様子と参加者の感想を紹介します。

第1回 県立考古博物館(7月26日)



- ・新しく興味のあることが見つかった。
- ・火起こしが心に残った。
- ・仲良くしてくれて良かった。

第2回 県立海洋体育館(8月9日)



- ・カヌーが楽しかった。
- ・最初は緊張したけど、だんだんと自分から話せるようになった。

地域やまびこ教室では、「保護者交流会」も行っています

各参加者から子どもの現状と現在の悩みについて話してもらい、そこから「親子の関わり方」や「学校との関係」、「学習や進学」などについて話し合いました。

★保護者交流会の感想★

- ・いろいろな方との交流は、いつも新しい発見があり、とても楽しい時間を過ごせた。
- ・自分の気持ちを共感してもらい、心が軽くなった。
- ・同じ悩みを持つ方と話ができて、気持ちが楽になった。
- ・「保護者が子どもにできること」についてたくさんヒントがもらえた。共感すること、受け止めることを大切にしたい。

ご案内

当所をまだご利用になっていないお子様はもちろん、保護者のみの参加も大歓迎です！みなさんの参加をお待ちしています！

第4回 県立神出学園(神戸市)

- 【と き】 10月25日(金)
【内 容】 動物ふれあい体験、リース作り
保護者交流会



第5回 県立山の学校(宍粟市)

- 【と き】 11月6日(水)
【内 容】 木工工作
保護者交流会



※詳細はHPをご覧ください。なお、「第3回 国立淡路青少年交流の家」は、定員に達しました。



兵庫県立但馬やまびこの郷保護者向け機関紙「やまびこ」No.50 ●令和6年9月

●兵庫県立但馬やまびこの郷 ●〒669-5135 兵庫県朝来市山東町森字向山 3045-101

●TEL(079)676-4724 ●FAX(079)676-4721

●E-mail : Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

06 教①2-015A4